

いま求められる患者安全 ～リハビリテーション中のインシデントの実際～

内藤 幾愛 先生

医療法人社団筑波記念会 筑波記念病院リハビリテーション部 副主任
理学療法士

平成27年10月20日（火）

18：30～20：30

筑波大学総合研究棟D 公開講義室(1F)

「“もう1度”歩きたい！仕事をしたい！話がしたい！」

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士は、対象者の様々な想いを受けて、「“少しでも”よくなるように！よく生きられるように」と、それぞれができる最善を考えながら日々奮闘しています。

各職種の有資格者は年々増加しており、活動の場も医療保健や介護保健分野に留まらず、産業保健分野などへも拡大してきています。そして、療法士の“量”が担保されはじめたいま、より高い“質”が求められています。“質”の向上と“安全”は密接な関係にあり、インシデントについて考えていくことは理学療法・作業療法・言語聴覚療法の“質”を向上させるために重要と考えます。

今回、公益財団法人日本医療機能評価機構の医療事故情報収集等事業に集約されたインシデントのデータと実際の現場で起こった事例から、リハビリテーションにおける患者安全について考えていきたいと思えます。

今回の勉強会では、筑波記念病院 内藤幾愛先生に「いま求められる患者安全～リハビリテーション中のインシデントの実際～」の演題で、お話していただく予定です。事前申し込みの必要はございません。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

この講演会は日本プライマリ・ケア連合学会茨城県支部の後援を受けています。この講演会に参加されますと、日本プライマリ・ケア連合学会 専門医・認定医2単位と認定薬剤師1単位が取得できます。

またフロンティア医科学専攻の医科学セミナー4（高齢者医学）の一部となっています。

連絡先：筑波大学医学医療系
福祉医療学
柳 久子

TEL&FAX：029-853-3496